

ONSA の設立とこれまでの経緯

放射線利用技術を広く普及するため、1959年に大阪府立放射線中央研究所（後に大阪府立大学と統合）が設立されました。この研究所を活用した産学共同の研究開発を進めるため、1988年に大阪府と関係企業の発意で、社団法人の協会が設立（2013年に一般社団法人に移行）されました。

ONSA を支える状況の変化と事業の新しい方針

多くの放射線利用研究施設では、維持管理が困難になっています。大阪府立大学の ONSA 事業への支援（業務委託）の打ち切りに伴い、今年度からの事業の方針を見直します。

まず関西における放射線・原子力分野の大学、研究機関、産業界などの相互の結びつきを強めるため、各組織から多くの会員を集めます。そのうえで、図に示すような相互の連携を支え、会員のニーズに合った活動を行います。

2021 年度定時会員総会報告

ONSA は、6月10日（木）、事務所のあるサンエイビルにおいて2021年度定時会員総会を開催しました。今年も新型コロナウイルスの影響で、多くの会員から、事前に書面による議決・委任の手続きによる出席をいただきました。

議決権のある正会員63名のうち、出席56名による総会成立が確認され、古田副会長を議長として次の項目で議事が進められ、審議の結果、原案は全て承認されました。

- ・2019年度事業報告
- ・第1号議案：2019年度貸借対照表・損益計算書（正味財産増減計算書）・財産目録（案）・貸借対照表及び損益計算書の注記・附属明細書（案）と監査報告。
- 第2号議案：2021年度事業計画と技術研究会等開催事業と収支予算書（案）。
- 第3号議案：定款第7条の「別に定める会費」一部変更（案）。

続いて同会場で2020年度 ONSA 賞表彰式が行われ、古田副会長から3名の受賞者に賞状が贈呈されましたが、今回は代理受取りとしました。受賞者および業績の概要はこのニュースでご紹介します。

以上で2021年度定時会員総会が閉会しました。交流会は中止となりました。

2021 年度からの ONSA の事業のご紹介

事業の計画は次の通りです。特に今年度からの新しい企画にご注目ください。

1. 放射線に関する科学技術情報の収集及び提供

企画運営委員会での企画をもとに、放射線・原子力分野で放射線科学研究会（年3～4回、第1回は本ニュースに案内掲載）、放射線利用総合シンポジウム（第30回を2022年1月下旬に開催予定）、などの講演会や施設見学会を開催し、情報交換を行うと共に、相互交流を図ります。また依頼に応じて講師を派遣します。これまでの研究会等の資料のほか、レポートなどの情報をホームペ

ージにまとめて提供します（一部は会員のみが閲覧可能）。

【ONSA 会議室の活用】 ONSA の活動目的に沿った会員の企画によるミニ研究会（出席者 10 人前後、Online 開催も可能）やミーティングをサポートします。ご希望があればご相談ください。

【ONSA ニュース】 年 4 回発行され、広く ONSA の会員と関係者を中心に様々な情報を提供し、また広報にも利用されます。原稿の寄稿をお願いします。

2. 委託業務、調査・研究などの受け入れ

公設研究機関、民間などから調査や研究を受託し、また行政機関の登録機関等としての業務を受託します。大阪府立大学からは、ガンマ線照射の受付等業務を受託しています。

3. 放射線関係団体、行政との連携活動

全国の団体との連携、実行委員としての活動を行います。大阪府立大学を事務局とする、「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委員会に加わり、一般市民への放射線の知識普及活動「みんなのくらしと放射線展」を年 1 回開催しています。行政機関等や関連団体への協力を行います。

4. 放射線利用に関する優れた研究・活動の顕彰と支援

放射線や放射性同位元素等に関わる優れた研究・活動の奨励のために ONSA 賞を贈り、今後の活動を応援します。広く企業、学校、研究機関などにおいて、関係する研究、産業における利用の促進や普及、または人材育成での優れた業績を対象としていますので、多くのご応募をお願いします。

5. 技術相談

放射線計測等の実施、放射線利用機関の紹介や、放射線被ばくなどの相談を受けています。放射線に関する問題などの、一般の方の相談窓口として貢献しています。

6. その他の活動

最近の例では、大阪府立大学で開発された便利で高性能なペルチェ冷却型霧箱を受託販売しています。

大阪ニュークリアサイエンス協会賞受賞者のことば

国立大学法人京都大学 医学部附属病院 講師 志水陽一

受賞課題：質量分析イメージング法による

PET 診断用低酸素イメージング剤の腫瘍内集積機序
の解明：薬物相互作用の探索、創薬への展開



★ 受賞の挨拶

この度は大変名誉ある大阪ニュークリアサイエンス協会賞（ONSA 賞）を賜り、誠にありがとうございます。今回受賞対象となった研究について簡潔に紹介させていただきます。ニトロイミダゾールを母核に有する PET 診断剤は、低酸素環境下細胞内の還元代謝により低酸素特異的に集積すると考えられ、腫瘍内低酸素組織の PET 診断に用いられてきました。しかし、PET イメージング手法では薬物代謝物の分離・同定が難しいため、本薬剤の詳細な集積機序は不明でした。そこで私たちは、